

# 令和7年度 葉面散布肥料・特殊資材の使い方 〔りんご〕

※記載されている内容は、あくまで例の倍率、使用時期です。

JAグリーン長野営農販売部・経済部

こんな時に使用	商品名	成分(%)	内容	使用倍率	主な使用時期 ※使用例。
樹勢を高める 果実肥大を良くする	アミノメリット青	N7-P4-P3-微	アミノ酸が、植物の生理作用を助け生育を促進する。 光沢と厚みのある葉をつくり、光合成を助ける。展着剤代わりになる。	500	開花直前・落花直後等
	尿素	N46	高温時はサビ発生に注意。	500	
カルシウム欠乏を軽減したい 果実の軟化を軽減したい	ストピットⅡ	Ca95.2	2種類の水溶性カルシウムにより、安定した補給ができ、 有機皮膜補助剤が配合されており、水分乾燥を促進し、果実や葉のストレスを軽減する。	500	定期防除(落花直後・5・6・7回) に混用散布やする。 又は、定期防除(落花直後)から 7日間隔で3回散布する。 収穫1ヶ月前から7日間隔で2-3回散布する。 又は5月から月1回散布する。 ※農薬混用可。
	スイカル	Ca42	ギ酸カルシウムにより、カルシウムを補給し、生理障害を軽減する。	1,000	
	カルタス	Ca10	キレートカルシウム、カルシウムを補給し、生理障害を軽減する。りん酸肥料と混用可。	500	
	カルビタ	Ca18.92-N0.1- P0.65-Mg1.4-微	カルシウム欠乏防止、油上がり防止、果実軟化防止。りん酸肥料と混用可。	500-1000	
果実軟化を軽減し、 果実品質を向上させたい	カルビタP	Ca14.83-P14.5-K1.9 -N2.2-Mg1.1-微	リン酸とカルシウムは結合し、溶けにくくなるため、 同時使用ができないが、これを改善した肥料。	770	収穫1ヶ月前から7日間隔で2-3回散布する。 ※農薬混用可。
マグネシウム(苦土)欠乏 を軽減したい (光合成を高めたい)	グリーントップ70	Mg23	マグネシウムは光合成を盛んにし、リン酸の働きを活発にし、糖度を向上させる。	500	落花後から2週間間隔で3-4回
	リーフマグ	Mg30		1,000	
	グリーンデイズ	Mg16-Mn9-B2.5	予防的使用 マグネシウムに加えて、マンガンとほう素を同時補給できる。	500-1000	
果実品質を高め、 花芽の充実を図りたい	オルガミン	N0.11-K0.11-Mg4 -Mn0.25-B0.7	魚・糖蜜をメインに発行させて作られた天然発行抽出アミノ酸に核酸・ビタミン・微量元素を追加。	1000-2,000	定期防除(落花直後から毎回)混用散布する。
	友果		海洋魚から抽出され良質なアミノ酸、核酸を豊富に含み品質向上させ、 棚持ちのよい果実になる。	500-1,000	定期防除(6・7回)に混用散布と 収穫1ヶ月前(農薬混用可)に散布する。
	ケルパック66		巨大海藻から抽出した海藻エキス。 アミノ酸やミネラル等の成分によって、光合成が高まり、品質向上が期待できる。	5,000-1,000	定期防除(落花直後から毎回)混用散布する。 ただし、収穫間際のみ500-1000倍で使用。
梅雨時の徒長を抑制し、 花芽を充実させたい。	アミノメリット黄	N3-P5-K5-微	アミノ酸が、植物の生理作用を助け健全な生育を促進し、梅雨時の徒長抑制や 花芽分化の促進、充実を図れる。展着剤代わりになる。	500	開花期前後並びに定期防除(8・9・10・11回) に混用散布。
果実品質を高めたい ふじの地色を抜き、 着色を向上したい	メリット赤	P10-K9-微	肥効の高いりん酸が配合されており、着色促進(地色抜き)が期待できる。展着剤代わりになる。	300	9月中下旬から7日間隔で 2-3回散布する。農薬混用可。
	色一番E	P42-K28-微量元素	リン酸、カリの成分が多い肥料カルビタ関係とは、混用してもよい	1,000-2,000	
果面障害(サビ等)を軽減したい	クレフノン	Ca95	炭酸カルシウムが主成分で果面保護をし、サビ果の軽減をする。	100	第4回防除～第7回防除
晩霜対策	アイスバリア	N1.5-K1-Mg1.5	天然糖類トレハノースを主成分とした、耐寒性を向上させる。	250-300	定期防除(展葉期から落果直後頃)に 混用散布する。
	霜ガード		葉・蕾・花・幼果をシリカのふとんで包み、凍霜害の被害軽減。 農薬の乾きが速まりサビ果の発生を軽減。落弁促進、花カス除去効果も。 開花前から幼果期までの定期農薬散布へ混用も可能だが、農薬の効果が低下する。	50-100	開花3-4週間前の蕾期と風船期50倍 と開花期～幼果期100倍 凍霜害予想日の前日散布

※葉面散布は、あくまで補助的なものです。これだけに頼らず、栽培管理や整枝剪定、土壌管理の徹底により、品質を高めましょう。 ※必ずラベル(特に注意事項等)を確認の上、使用下さい。

※液肥でも、kg標記の場合は、重量で使用量を定める。 ※特に標記の無い場合は、カルシウム肥料とリン酸肥料は結合してしまうため混用できない。 ※特に標記の無い場合は、展着剤を使用下さい。

※記載されている資材は、主にJAファームにて販売されているものです。ご注文となる場合もありますので、店舗にてご確認下さい。

# 葉面散布の注意点と具体的使用方法の提案〔りんご〕

- 作物は、根からでなく、葉からも養分を吸収することができる。葉から直接養分が吸収されるので、速効性がある。  
しかし、根からの吸収量に比べて少なく、あくまで補助的な手段になる。
- 下記のような条件等において、葉面散布の効果が期待(有効)できます。
  - ①天候不順(日照不足・異常高温低温等)があり、根の養分吸収機能が低下している。
  - ②土壌に施用しても、不可吸態になり、植物に吸収されにくい。      ③着果過多による同化養分の補給が追い付かない。
  - ④微量要素欠乏による生理障害が予想されたり、初期症状が発生した。
  - ⑤養分不足を急速に回復したい。      ⑥作物の品質向上を図る。
- 注意点
  - ①葉面散布における最適な温度は、15～25℃程度。5℃以下では、吸収が大幅に減少し、30℃を超えると葉焼け症状の発生が多くなるため、使用を控える。また、範囲内であっても、希釈倍率を薄めて、使用する事が望ましい。
  - ②幼木や若い柔らかい葉はど、葉害を生じやすい。
- 具体的使用方法の提案 ※あくまで、使用例です。表面と使用方法が異なる場合があります。  
※複数ある資材は、選択して使用下さい。

薬剤防除時期 (散布時期目安)	第1回 (3月中下旬)	第2回展葉始 (4月上旬)	(4月中旬)	第3回開花直前
凍霜害対策	第1回防除～第2回防除の間に単用 霜ガード:50倍又はアイスバリア333倍		特防除～第3回防除に混用散布 または単用散布 霜ガード:50倍はアイスバリア333倍	
品質向上 花芽充実 生理障害 対策	防除に混用散布 アミノメリット黄:500倍			
防除時期	第4回落花直後～第6回 (5月上旬～5月下旬)	第7回～第12回 (6月上中旬～8月下旬)	第13回・14回 (9月上中旬～9月下旬)	10月上旬
凍霜害対策	開花期～幼果期に混用散布 霜ガード:100倍			
品質向上 花芽充実 生理障害 対策	防除に混用散布  ケルパック66:5,000倍 又は 友果:500-1,000倍 又は オルガミン:1,000倍  + ストピットⅡ:500倍 又は スイカル:1,000倍 又は カルビタ:,1000倍 又は カルタス:500-1,000倍	防除に混用散布  ケルパック66:3,000倍 又は 友果:500-1,000倍 又は オルガミン:1,000倍  + ストピットⅡ:500倍 又は スイカル:1,000倍 又は カルビタ:,1000倍 又は カルタス:500-1,000倍	防除に混用散布  ケルパック66:1,000倍 又は 友果:500-1,000倍 又は オルガミン:2,000倍  + メリット赤:500倍 又は カルビタP:770倍 又は 色一番E:1,000-2,000倍	単用散布  ケルパック66:1,000倍 又は 友果:500-1,000倍 又は オルガミン:2,000倍  + メリット赤:500倍 又は カルビタP:770倍 又は 色一番E:1,000-2,000倍
	単用散布、2～3回 グリーントップ70:500倍 又は リーフマグ:1,000倍	単用散布、2～3回 グリーントップ70:500倍 又は リーフマグ:1,000倍		

# 令和7年度 葉面散布肥料・特殊資材の使い方 [もも・ネクタリン]

※記載されている内容は、あくまで例の倍率、使用時期です。

JAグリーン長野営農販売部・経済部

こんな時に使用	商品名	成分(%)	内容	使用倍率	主な使用時期 ※使用例。
受精安定 果実肥大促進	アミノメリット黄	N3-P5-K5-微	アミノ酸が、植物の生理作用を助け健全な生育を促進し、梅雨時の徒長抑制や花芽分化の促進、充実を図れる。展着剤代わりになる。	500	開花7日前と開花始めと落花5日後の3回 3回目のみアミノメリット青とする。
	アミノメリット青	N7-P4-P3-微	アミノ酸が、植物の生理作用を助け生育を促進する。 光沢と厚みのある葉をつくり、光合成を助ける。展着剤代わりになる。	500	
樹勢を高める 果実肥大を良くする	アミノメリット青	N7-P4-P3-微	アミノ酸が、植物の生理作用を助け生育を促進する。 光沢と厚みのある葉をつくり、光合成を助ける。展着剤代わりになる。	500	落花直後等
	尿素	N46	高温時はサビ発生に注意。	500	
樹勢が強い樹対策	メリット赤	P10-K9-微	肥効の高いりん酸が配合されており、着色促進(地色抜き)が期待できる。展着剤代わりになる。	300	6月中に7-10日間隔で3回散布する。 ※定期防除に混用してもよい。
	色一番E	P42-K28-微量要素	リン酸、カリの成分が多い肥料カルビタ関係とは、混用してもよい	2000	
果実の軟化を軽減したい	ストピットⅡ	Ca95.2	2種類の水溶性カルシウムにより、安定した補給ができ、有機皮膜補助剤が配合されており、水分乾燥を促進し、果実や葉のストレスを軽減する。	500	収穫30日前から10日間隔で3回散布する。 ※定期防除に混用してもよい。
	スイカル	Ca42	ギ酸カルシウムにより、カルシウムを補給し、生理障害を軽減する。	1,000	
	カルタス	Ca10	キレートカルシウム、カルシウムを補給し、生理障害を軽減する。りん酸肥料と混用可。	500	
	カルビタ	Ca18.92-N0.1-P0.65-Mg1.4-微	カルシウム欠乏防止、油上がり防止、果実軟化防止。りん酸肥料と混用可。 ※代わりにカルビタP770倍又はカルビタPK500倍を使用してもよい。	1,000	
果実軟化を軽減し、 果実品質を向上させたい	カルビタP	Ca14.83-P14.5-K1.9-N2.2-Mg1.1-微	リン酸とカルシウムは結合し、溶けにくくなるため、同時使用ができないが、これを改善した肥料。	770	
マンガン欠乏を軽減したい	硫酸マンガン	MN40	マンガン欠乏対策に。	250	落花30日(5月下旬)と落花40日(6月上旬) 又は、発生が見られた時。 落蕾症発生園は、100倍で使用。
	葉面散布用硫酸マンガン	Mn13.5	使いやすい、液剤の硫酸マンガン。マンガン欠乏対策に。	200	
	グリーンデイズ	Mg16-Mn9-B2.5	予防的使用 マンガンに加えて、マグネシウム(苦土)とホウ素を同時補給できる。	500-1000	
マグネシウム(苦土)欠乏 を軽減したい (光合成を高めたい)	グリーントップ70	Mg23	マグネシウムは光合成を盛んにし、リン酸の働きを活発にし、糖度を向上させる。	500	落花後から2週間間隔で3-4回
	リーフマグ	Mg30		1000	
果実の品質を高めたい	メリット赤	P10-K9-微	肥効の高いりん酸が配合されており、着色促進(地色抜き)が期待できる。展着剤代わりになる。	300	収穫30日前・15日前頃、除袋後に3回散布。  収穫30日前・15日前頃に2回散布。
	色一番E	P42-K28-微量要素	リン酸、カリの成分が多い肥料カルビタ関係とは、混用してもよい。	2000	
	モーニングシャイン	N2-P3-K3.5-B0.1	海藻エキス、コリン、タウリン配合。	1,000-500	
果実品質を高め、 花芽の充実を図りたい	オルガミン	N0.11-K0.11-Mg4-Mn0.25-B0.7	魚・糖蜜をメインに発行させて作られた天然発行抽出アミノ酸に核酸・ビタミン・微量元素を追加。	1000-2,000	定期防除(落花直後から毎回)混用散布する。
	友果		海洋魚から抽出され良質なアミノ酸、核酸を豊富に含み品質向上させ、棚持ちのよい果実になる。	500-1,000	定期防除(4・6・7・9・除袋防除回)混用散布する。
	ケルパック66		巨大海藻から抽出した海藻エキス。アミノ酸やミネラル等の成分によって、光合成が高まり、品質向上が期待できる。	5,000-1,000	定期防除(落花直後から毎回)混用散布する。 ただし、収穫間際のみ500-1000倍で使用。
薬害軽減を軽減したい	クレフノン	Ca95	炭酸カルシウムが主成分で、銅剤による薬害を軽減する。	100	クプロシールド、秋季ムッシュボルドーDFに使用。
晩霜対策	アイスバリア	N1.5-K1-Mg1.5	天然糖類トレハノースを主成分とした、耐寒性を向上させる。	250-300	定期防除(展葉期から落果直後頃)に混用散布する。
	霜ガード		葉・蕾・花・幼果をシリカのふとんで包み、凍霜害の被害軽減。 農薬の乾きが速まりサビ果の発生を軽減。落弁促進、花カス除去効果も。 開花前から幼果期までの定期農薬散布へ混用も可能だが、農薬の効果が低下する。	50-100	開花3-4週間前の蕾期と風船期50倍 と開花期～幼果期100倍 凍霜害予想日の前日散布

※葉面散布は、あくまで補助的なものです。これだけに頼らず、栽培管理や整枝剪定、土壌管理の徹底により、品質を高めましょう。 ※必ずラベル(特に注意事項等)を確認の上、使用下さい。

※液肥でも、kg標記の場合は、重量で使用量を定める。 ※特に標記の無い場合は、カルシウム肥料とリン酸肥料は結合してしまうため混用できない。 ※特に標記の無い場合は、展着剤を使用下さい。

※記載されている資材は、主にJAファームにて販売されているものです。ご注文となる場合もありますので、店舗にてご確認下さい。

## 葉面散布の注意点と具体的使用方法の提案〔もも・ネクタリン〕

- 作物は、根からでなく、葉からも養分を吸収することができる。葉から直接養分が吸収されるので、速効性がある。  
しかし、根からの吸収量に比べて少なく、あくまで補助的な手段になる。
- 下記のような条件等において、葉面散布の効果が期待(有効)できます。
  - ①天候不順(日照不足・異常高温低温等)があり、根の養分吸収機能が低下している。
  - ②土壌に施用しても、不可吸態になり、植物に吸収されにくい。      ③着果過多による同化養分の補給が追い付かない。
  - ④微量要素欠乏による生理障害が予想されたり、初期症状が発生した。
  - ⑤養分不足を急速に回復したい。      ⑥作物の品質向上を図る。
- 注意点
  - ①葉面散布における最適な温度は、15～25℃程度。5℃以下では、吸収が大幅に減少し、30℃を超えると葉焼け症状の発生が多くなるため、使用を控える。また、範囲内であっても、希釈倍率を薄めて、使用する事が望ましい。
  - ②幼木や若い柔らかい葉はど、葉害を生じやすい。
- 具体的使用方法の提案 ※あくまで、使用例です。表面と使用方法が異なる場合があります。

※複数ある資材は、選択して使用下さい。

薬剤防除時期 (散布時期目安)	第1回 (3月中旬)	第2回開花直前	第3回満開後頃	第4回落花10日後
凍霜害対策	第1回防除後に1回、第2回防除前に1回、単用散布 霜ガード: 50倍又はアイスバリア250倍		第3回・第4回防除に混用散布 または単用散布 霜ガード: 100倍又はアイスバリア250倍	
品質向上 花芽充実 生理障害 対策	開花予定7日前頃に単用散 アミノメリット黄: 500倍	開花後に単用散布 アミノメリット黄: 500倍	第3回防除5日後頃に単用散 アミノメリット青: 500倍	防除に混用散布 ケルパック66: 5,000倍 又は 友果: 500-1,000倍 又は オルガミン: 1,000倍
防除時期	第5回～第8回 (5月上旬中旬～6月中下旬)	第9回～第10回 (7月上旬～7月中下旬)	除袋後	収穫2日前
品質向上 花芽充実 生理障害 対策	防除に混用散布 ケルパック66: 5,000倍 又は 友果: 500-1,000倍 又は オルガミン: 1,000倍 + グリーントップ70: 500倍 又は リーフマグ: 1,000倍	防除に混用散布 ケルパック66: 3,000倍 又は 友果: 500-1,000倍 又は オルガミン: 1,000倍 又は モーニングシャイン: 1,000倍 + ストピットⅡ: 500倍 又は スイカル: 1,000倍 又は カルビタ: 1,000倍 又は カルタス: 500-1,000倍	防除に混用散布 ケルパック66: 1,000倍 又は 友果: 500-1,000倍 又は オルガミン: 2,000倍 又は モーニングシャイン: 1,000倍 + メリット赤: 500倍 又は カルビタP: 770倍 又は 色一番E: 1,000-2,000倍	防除に混用散布 ケルパック66: 1,000倍 又は 友果: 500-1,000倍 又は オルガミン: 2,000倍 + メリット赤: 500倍 又は カルビタP: 770倍 又は 色一番E: 1,000-2,000倍
	単用散布、2～3回 硫酸マンガン: 250倍 又は 液体硫酸マンガン: 200倍 又は グリーンデイズ: 500倍			

## 令和7年度 葉面散布肥料・特殊資材の使い方〔ぶどう〕

※記載されている内容は、あくまで例の倍率、使用時期です。

JAグリーン長野営農販売部・経済部

こんな時に使用	商品名	成分(%)	内容	使用倍率	主な使用時期
芽ぞろいの向上を図る	メリット青	N3-P5-K5-微	アミノ酸が、植物の生理作用を助け健全な生育を促進し、梅雨時の徒長抑制や花芽分化の促進、	2	2月から3月上旬頃に芽に塗布する。 ※塗布後、降雨にあうと効果が低減する。
樹勢を高める	アミノメリット青	N7-P4-P3-微	アミノ酸が、植物の生理作用を助け生育を促進する。 光沢と厚みのある葉をつくり、光合成を助ける。 展着剤代わりになる。	500	袋掛け後、7月下旬から5-7日間隔で2-3回散布する。※ボルドー液との混用可能。ただし、日中高温時は葉焼けが生じるので注意する。
種あり巨峰の結実安定をしたい	マルポロン		ホーサンでぶどうの結実を安定させる。	330	開花7日前と2日前
	色一番E	N42-K28-微量要素	リン酸、カリの成分が多い肥料。カルビタ関係とは、混用してもよい	1,000	展葉5-6枚期と定期防除(展葉7-8枚)に散布。
	ケルパック66			500	定期防除(展葉7-8と開花直前)の間に散布。
果実品質を高め、 花芽の充実を図りたい	オルガミン	N0.11-K0.11-Mg4-Mn0.25-B0.7	巨大海藻から抽出した海藻エキス。 アミノ酸やミネラル等の成分によって、光合成が高まり、品質向上が期待できる。	1000-2,000	定期防除(展葉7-8から落花直後)に混用散布。 袋掛け後の、ボルドーに混用散布。
	ケルパック66			3,000-1,000	展葉5-6枚期と定期防除(開花直前・落花直後)に混用散布する。
熟度促進 着色向上	アミノメリット黄	N3-P5-K5-微	アミノ酸が、植物の生理作用を助け健全な生育を促進し、梅雨時の徒長抑制や花芽分化の促進、充実を図れる。 展着剤代わりになる。	500	8月上旬～下旬に5-7日間隔で3回散布する。 1回目は、窒素を含んだアミノメリット黄を使用。 ただし、弱樹勢樹は行なわない。
	メリット赤	P10-K9-微	肥効の高いりん酸が配合されており、着色促進(地色抜き)が期待できる。 展着剤代わりになる。	300	
	色一番E	P42-K28-微量要素	リン酸、カリの成分が多い肥料。カルビタ関係とは、混用してもよい。	1,000	
	モーニングシャイン	N2-P3-K3.5-B0.1	海藻エキス、コリン、タウリン配合。	1,000-500	
マグネシウム(苦土)欠乏を軽減したい (光合成を高めたい)	グリーントップ70	Mg23	マグネシウムは光合成を盛んにし、リン酸の働きを活発にし、糖度を向上させる。	500	定期防除(9・10・11回)に混用散布。 及び欠乏症が確認された時。 ただし、果実汚れ防止袋掛け後とする。
	リーフマグ	Mg30		1,000	
晩霜対策	霜ガード		葉・蕾・花・幼果をシリカのとんで包み、凍霜害の被害軽減。 農薬の乾きが速まりサビ果の発生を軽減。 落弁促進、花カス除去効果も。	50	萌芽期

※葉面散布は、あくまで補助的なものです。これだけに頼らず、栽培管理や整枝剪定、土壌管理の徹底により、品質を高めましょう。 ※必ずラベル(特に注意事項等)を確認の上、使用下さい。

※液肥でも、kg標記の場合は、重量で用量を決める。 ※特に標記の無い場合は、カルシウム肥料とリン酸肥料は結合してしまうため混用できない。 ※特に標記の無い場合は、展着剤を使用下さい。

※記載されている資材は、主にJAファームにて販売されているものです。ご注文となる場合もありますので、店舗にてご確認下さい。

## 令和7年度 葉面散布肥料・特殊資材の使い方〔特産果樹〕

※記載されている内容は、あくまで例の倍率、使用時期です。

JAグリーン長野営農部・経済部

こんな時に使用	商品名	成分(%)	内容	使用倍率	主な使用時期
樹勢を高める 果実肥大を良くする	アミノメリット青	N7-P4-P3-微	アミノ酸が、植物の生理作用を助け生育を促進する。 光沢と厚みのある葉をつくり、光合成を助ける。 展着剤代わりになる。	500	開花直前・落花直後等
	尿素	N46	高温時はサビ発生に注意。	500	
ほう素欠乏を軽減したい	ソーゲン	N5-P4-K3-Mg1-B3-微	有機りん酸(フィチン酸)のキレート作用により吸収性がよく、 ほう素を効率良く利用させる。	500	杏の定期防除(落花15日・落花30日 ・収穫2週間前)に混用散布。
果実品質を高め、 花芽の充実を図りたい	オルガミン	N0.11-K0.11-Mg4 -Mn0.25-B0.7	魚・糖蜜をメインに発行させて作られた天然発行抽出アミノ酸に核 酸・ビタミン・微量元素を追加。	1000-2,000	
	友果		海洋魚から抽出され良質なアミノ酸、核酸を豊富に含み品質向上さ せ、棚持ちのよい果実になる。	500-1,000	
	ケルパック66		巨大海藻から抽出した海藻エキス。 アミノ酸やミネラル等の成分によって、光合成が高まり、品質向上 が期待できる。	1,000-2,000	
	モーニングシャイン	N2-P3-K3.5-B0.1	海藻エキス、コリン、タウリン配合。	1,000-500	
晩霜対策	アイスバリア	N1.5-K1-Mg1.5	天然糖類トレハノースを主成分とした、耐寒性を向上させる。	250-300	定期防除(展葉期から落果直後頃)に 混用散布する。
	霜ガード		葉・蕾・花・幼果をシリカのふとんで包み、凍霜害の被害軽減。 農薬の乾きが速まりサビ果の発生を軽減。落弁促進、花カス除去 効果も。 開花前から幼果期までの定期農薬散布へ混用も可能だが、農薬の 効果が低下する。	50-100	開花3-4週間前の蕾期と風船期50倍 と開花期～幼果期100倍 凍霜害予想日の前日散布

※葉面散布は、あくまで補助的なものです。これだけに頼らず、栽培管理や整枝剪定、土壌管理の徹底により、品質を高めましょう。 ※必ずラベル(特に注意事項等)を確認の上、使用下さい。

※液肥でも、kg標記の場合は、重量で使用量を決める。 ※特に標記の無い場合は、カルシウム肥料とリン酸肥料は結合してしまうため混用できない。 ※特に標記の無い場合は、展着剤を使用下さい。

※記載されている資材は、主にJAファームにて販売されているものです。ご注文となる場合もありますので、店舗にてご確認下さい。